

Fans

生涯学習情報誌
-フォonz-

78

No. 78 2016年4月13日発行
常陸太田市フォonz・ネットワーク事務局
常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL:0294-(72)8888/FAX:0294-(72)8880

水を育む（里川町）

岡崎 靖

里美の水を初めて飲んだのは十九年前。日立市から過疎定住対策で造成した分譲地に家を建て家族で引っ越して来た初日。蛇口からコップに水を注ぎ口にした瞬間の喜びは今も忘れません。

時が経ち里美の地に職を求め、縁あって地元酒蔵で蔵人として働くようになり、里美の水に対する想いは一層強くなりました。

酒造りでは、全ての作業において水が欠かせません。材料の米を洗うための水、米を浸漬しんせきするための水、もろみをつくるときの仕込み水、米ふかしや麴くわづくりに使った布を洗う水、道具を洗うための水など。仮に1kgのもろみを仕込むために使う水を積み上げたらその五倍以上になります。それ故、水そのものが酒の質を決めてしまうと言ってもおかしくはありません。酒の命は米と水と言われますが、実際に造りに携わりその言葉の重みを身をもって知らされました。

そんな思いを抱きながら仕事をしているときに蔵元が言った言葉「良い水を得るには、良い森をつくること。良い森をつくるには良い人をつくること」水と森と人のかかわりと環境教育の大切さを蔵元なりの表現で語ってくれたのだと思います。「水を育むには森を育む、森を育むには人を育む」この想いを世代を超えて繋げて行くところが、水の生まれる場所里美を守り続けて行けるのだと信じこれからも活動を続けていきたいと思っています。

常陸太田の四季を歩くー春・夏編ー

春の里美を歩く三つのコース

春の里美を歩いてみませんか。短い時間でどれか一つのコースを歩いてもよし。丸一日かければ一日で三つのコースを歩くこともできます。

常陸太田は関東平野と阿武隈山地が出会う場所。常陸太田は豊かな歴史と自然にあふれています。その豊かな自然を身近に感じられる、フォンススタッフが実際に歩いてみた春と夏にお勧めの小散策を紹介します。
 【安嶋 隆、五十嵐弘、鴨志田弘子、黒澤貴子、黒羽文男】
 【高橋靖浩、武藤 卓、武藤千絵子】

① ふかふか落葉の上を歩く岡見の雑木林

新緑前の明るい雑木林の中、ふかふかの落葉の上を小さな溪流の流れる音を聞きながら歩くコースです。植物の息吹を観察しながら、そして運が良ければ雑木林の水たまりの中に小さな命の誕生を見つけることができるかもしれません。



ミズナラ(ブナ科)の大木
以前は、ミズナラなどの落葉樹林が広がる原生林だったらしい。

落葉樹林と溪流
春にはニリンソウ、スマレ類、ネコノメソウ類など、数多くの種類が花を咲かせます。



ヤブレガサ(キク科)
名前と実物がピッタリ、破れた傘そっくりです。



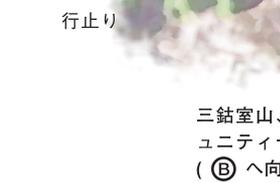
ヒメイチゲ(キンポウゲ科)
小さい白い花をつける。草丈は数cmと小さくて目立ちません。



ハルトラノオ(タデ科)
タデの仲間。春早くトラの尾のように花穂を立てるところから名前がつけました。



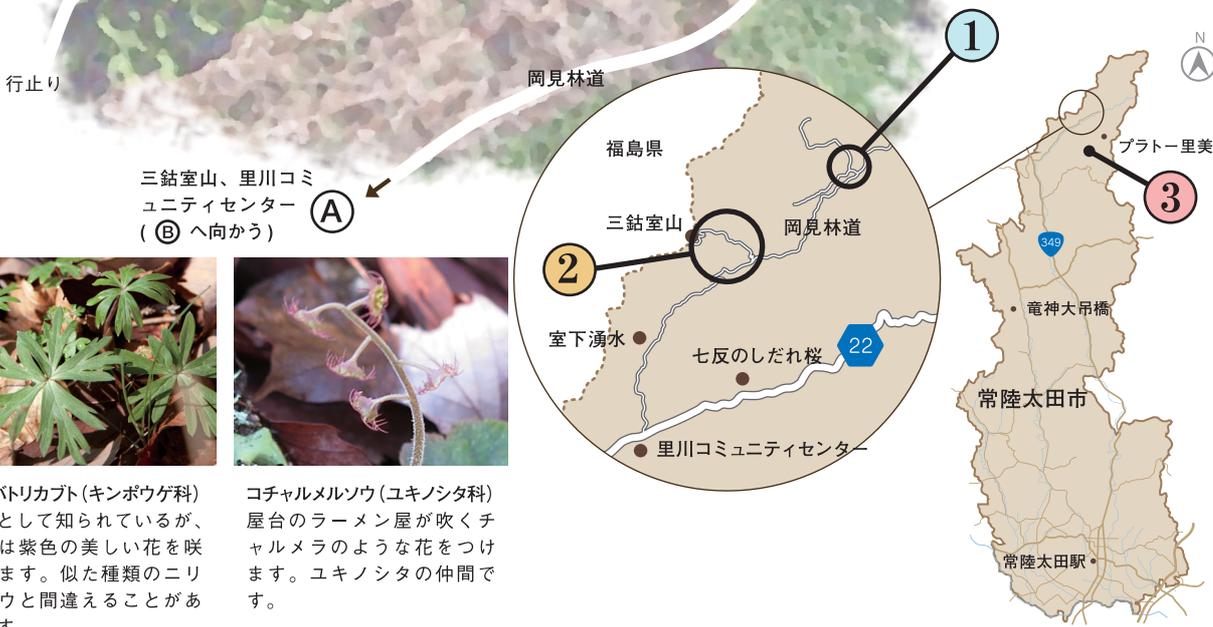
ヨゴレネコノメソウ(ユキノシタ科)
実が猫の目に似ているところから名前がつけました。



ツクバトリカブト(キンポウゲ科)
毒草として知られているが、秋には紫色の美しい花を咲かせます。似た種類のニリンソウと間違えることがあります。



コチャルメルソウ(ユキノシタ科)
屋台のラーメン屋が吹くチャルメラのような花をつけます。ユキノシタの仲間です。



② 絶景の三鈷室山頂上

標高870mの三鈷室山の頂上は遠くに風力発電の風車を望む絶景。頂上までは整備された道が続きますので登山初心者でも安心です。登山道沿いでは植物が芽生えの真っ最中。植物図鑑を携え、その姿形を見ながら名前の由来を家族で考えてみてはいかがでしょうか。安全な登山道ですが、足許や飲み水等の準備は怠りなく。

福島県

三鈷室山頂上



祠や石仏



ニワトコ(スイカズラ科)

小さい白い花が咲き、夏に赤い実を付けます。



頂上からは、遠くにプラトーさとみの風車が見えます。



ミマガタテンナンショウ(サトイモ科)

コンニャクの仲間。オスからメスに変化。筒型の花の一部が、耳たぶのように見えるところから名前がつけました。

ニシキウツギ(スイカズラ科)に寄生したキクラゲの仲間。



岡見林道

里川コミュニティセンターへ

B

岡見集落・
岡見雑木林
(Aへ向かう)

③ ミズナラの林を散策、茨城県立里美野外活動センター

アップダウンも少ない整備された散策道を歩くと、落葉樹の枝に寄生するヤドリギがたくさん。新緑前の林なので寄生された落葉樹の樹形とヤドリギの違いがよくわかります。そして、ルート上の最終地点にはカタクリの群生。



カタクリ(ユリ科)

落葉樹の下に群生。春の花を咲かせると、夏からは深い眠りにつきます。



石割り山桜

野外活動センター



エイザンスミレ(スミレ科)
淡いピンクの花。葉は鳥の足のように分かれています。比叡山に生えるスミレの意味。平地では見られません。

プラトー里美へ

P



ニリンソウ(キンボウゲ科)
小さな白い花が咲きます。



ヤドリギの実

ヤドリギ(ヤドリギ科)

落葉樹に寄生。ブナに寄生することが多いのですが、エノキ、ミズナラ、ケヤキ、サクラなどにもつきます。冬落葉すると常緑のヤドリギが鳥の巣のように寄生した姿が見られます。花と実は黄色、実をつぶすとネバネバします。

夏の長谷溪流の小散策

日本列島が形成された時代の極めて古い地層が確認された長谷溪流。真夏でも涼しい長谷溪流沿いにコートランド岩や二本の大杉、そして道路脇の植物観察にご家族で小散策はいかがですか。行程も短く、楽しく水遊びができる場所もあります。



ハグロソウ(キツネノマゴ科)
常陸太田ではあまり見ることができません。唇形の小花がかわいいです。



レモンエゴマ(シソ科)
シソ科。葉はエゴマに似ていて、レモンの香りがします。



タマアジサイ(ユキノシタ科)
球状のつぼみ。溪流沿いに群生しています。



下に降りるためのロープがあります。安全をよく確かめてから使用してください。



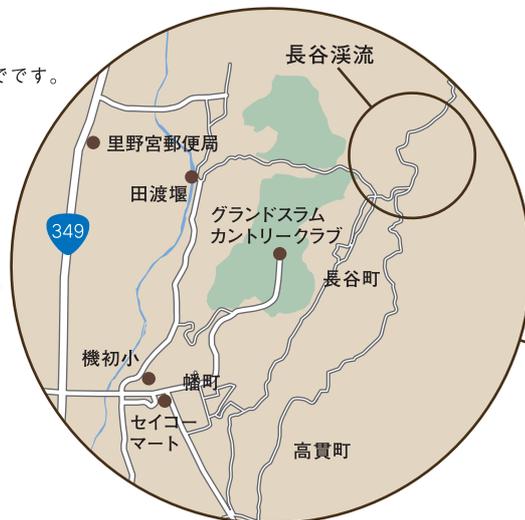
二本の大杉
かつては、杉の林が広く見られたそうです。大量に切り出された時代を経て生き残った杉です。石の祠もあり、山の神様がやどっているように感じられました。現在見ている杉林は植林されたもので、数十年経っているので様々な植物が見られるそうです。



車両止め
クルマはここまでです。



この橋の近くに5、6台駐車スペースがありますが、他の車の通行の妨げにならないようにしてください。



コートランド岩
マグマが冷えて固まってできる暗緑色の火成岩の一種で、その中でもゆっくり冷えて固まってできる深成岩の仲間です。地球の比較的深い地点でできる岩石なので、地表に露出したコートランド岩を見ることは国内では珍しいことです。名前はアメリカ ニューヨーク州 コートランドの地名が由来です。

冬の見どころ

木々が葉を落とし、草が枯れ視野が広がったせいか見通しが良く、溪谷の澄んだ川の流れや木々の形が良く見えます。入口から数十分歩いたところに広場が有り、休憩するには良い場所だと思います。ゆっくり腰を下ろし、冬の暖かい日差しを浴びながらお弁当などを広げてみてはいかがでしょうか。



フユイチゴ(バラ科)
つる性のキイチゴ類。
冬に実をつける。12月
が食べ頃。



フジ(マメ科)
マメ科の仲間なので実
はこのような大きなサ
ヤができます。



ヤブツバキ(ツバキ科)
シラカシなどの常緑樹
林によく見られます。



コートランド岩から垂れ
下がるつらら

シダ植物の群生

溪流沿いの斜面には次のような多数のシダ植物が見られます。

ウラジロ	テリハヤブソテツ	マメヅタ
イノモトソウ	イヌワラビ	ハリガネワラビ
ジュウモンジシダ	オオバノイノモトソウ	ゲジゲジシダ



ウラジロ(ウラジロ科)
正月飾りに利用される。常緑のシ
ダ植物。



マメヅタ(ウラボシ科)



シラカシ(ブナ科)
常緑樹の代表的な種類。



世矢中学校

安嶋 隆・高橋 靖浩

世矢中学校は、昭和二十二年の学制改革と同時に久慈郡世矢村立世矢中学校として真弓町に開校しました。

現在、一年生四一名、二年生四二名、三年生四一名、総数一二四名（平成二十八年一月現在）の生徒が学んでいます。

※新しく生徒会役員になった生徒会長の志智友哉さん、副会長の鈴木綺羅々さん、会計の木名瀬遙介さん、会計の梶山慧さん、書記の久保木玲朱さん、書記の棚部結梨亜さんの六名にお話を聞いてきました。

■世矢中で取り組んでいる独自の行事等を紹介してください。

一、毎年十一月に文化祭「あすなる祭」を開催しております。今年も、クラス単位で合唱コンクール、ダンスの発表、他に生徒が企画し脚本を書いた演劇「孫太郎」を公演しました。



梶山 慧さん 棚部結梨亜さん

木名瀬遙介さん 志智友哉さん 鈴木綺羅々さん 久保木玲朱さん

二、生徒会でスローガン「歩み」を掲げ、サブスローガンを「努力の足跡」とし、自分の目標に向かって進み、努力した結果をクラスで評価し、中央委員会ですべて上げています。三、通学に半数以上の生徒が自転車を利用していただきますので、交通安全指導を受け、安全な自転車通学をしています。

■今後の抱負等をお願いします。

・生徒会のイベントの企画・立案し、運営したいです。

・モラルのある学校生活を過ごし、社会に出たときにも、モラルがある行動が出来るようにしたいです。

・縦横の繋がりある交流を図り、活動したいです。

・地域とのかかわりを重視し、活動して行きたいです。

・部活動や体育行事に積極的に取り組み、体力向上を図りたいです。

・明るい声でみんな笑顔で、元気な挨拶が出来るようにしたいです。

最後に、「世矢中は少人数なので、学年間でも協調が取れ、思いやりあふれる世矢中学校になるよう活動して行きたい」と生徒会長が話してくれました。

かなり緊張感の漂う中、内容を一生懸命考え、整理しながらとても力強く答えてくれました。

※常陸太田市内の中学校生徒会役員の改選は秋に行われます。

一・二年生から新役員が選ばれ翌年秋までの一年間の任期です。

常陸太田の地名話 21

里美『常陸太田市里美地区』

川松博

昭和三十一年（一九五六）九月一日、小里村と賀美村が合併して里美村が誕生し、この二つの村の一字ずつをとって「里美村」となった。難しい文字を使っているわけでもなく、どこにでもありそうな名称だが、全国には「里美」は一つしかないとのことである。

平成十六年（二〇〇四）十二月一日、平成の大合併により常陸太田市に編入した。それにより、約五十年の歴史をもつ「里美」の地名は小・中学校、幼稚園、市役所支所等地区内のおよそつかの施設に残されている。

〈参考文献〉

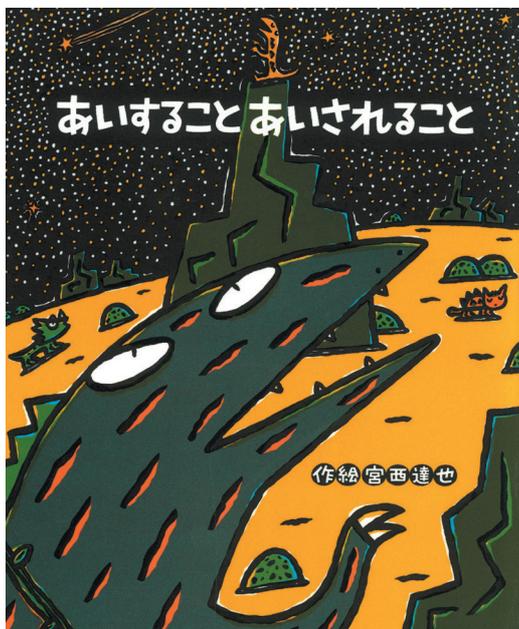
「茨城県地名大辞典」「里美村史」「里美の歴史散歩」



市内唯一の小中一貫校里美小・中学校

「思い出の絵本」『あいすること あいされること』

田那辺 歩美（中城町）



この絵本との出会いは、息子が闘病中に幼稚園のときの先生がお見舞いに来て下さり、その時初めて目にしました。それまでもいろいろな本を読み聞かせしてきましたが、このシリーズを目にしたことはなく、この優しい響きのタイトルに相反して恐竜のゴツゴツしたタッチの表紙は少しギョップを感じたことを覚えてます。

意地悪な恐竜はいつも一人ぼっちでいましたが、大きな卵を拾ったことから徐々に卵に対して愛情が芽生えていき

ます。初めは生まれたら食べてしまおうと考えていた卵に話しかけたりするうちに、誰かを愛したことも愛されたこともかつかつて一度もなかった恐竜が卵を背負いながら生活していく中で、お互いの存在がかげがえのないものに変化していくという素敵なお話でした。

生涯学習センターをベースに、市内で活発に活動している団体「ジオネット常陸太田」を代表の石川昇一さんに紹介していただきます。

ジオネット常陸太田は、常陸太田市と那珂市在住のインタープリターで構成するボランティア団体で、二〇一二年十二月に立ち上げ、現在、十五名全員がフル活動しています。

主な活動としては、年二回（春・五月、秋・十一月）の自主企画のジオハイキングや希望者からのガイド依頼による竜神峡等のジオガイド・勾玉づくり体験などを実施している。

他に、会員持ち廻りで担当し、昨年度は、「広報ひたちおた」に「ジオの世界へようこそ」と題した記事を連載してきました。



ジオネット常陸太田

代表 石川 昇一



長谷町のカンブリア紀の岩石



ジオハイキング



勾玉づくり体験会

倉断層」が南北に二条の断層として走り、長谷溪谷の西堂平林道入り口周辺にはコートランド岩の露頭が見られます。また、茂宮川最上流部にある地層の一部の岩石から日本最古となる約五億年前のカンブリア紀のものが発見されています。

他にも梅津会館のカウンターや国会議事堂の中央階段にも使用されている、真弓山から産出された「寒水石」は、石灰岩がマグマの熱を受けて変成した石です。さらに、笹目・ぼたん・もみじなどの紋様で有名な「まだら石（町屋石）」は、かんらん岩が水的作用により変質した石です。どちらの石も江戸時代には、「御留石」といって水戸徳川家が領民による流通を禁止したほどの貴重な石でした。

このように、常陸太田は石の宝庫で、古くから石を用いた文化が発達してきていることがわかります。

みなさんも、大地に刻まれた太古の記憶を呼び起こし、五億年の旅に出てみませんか。春に、西金砂山ジオハイキング、秋に、御岩山ジオハイキングを計画しています。近くなりましたら、市報等で参加者を募集しますので、どうぞお申し込みください。

※地域のコミュニティ等で案内・説明等を行う人のことです。

新太田点描 14

朝比奈泰吉の太田通行

安政二年（一八五五）水無月（六月）二日、水戸の住人朝比奈泰吉は那須温泉への旅行を思い立ち早朝に門出した。時に泰吉二十五歳、家族などは那珂川のほとりまで見送りに来てくれた。その岸辺で別れるとき、岸の柳を見て一首詠んでみた。

むかし誰けふの別れにむすぶべく
おふじ立てたる柳なるらん

（以下、太田地方に関する記述の部分を現代風に書き改めて紹介しよう。）

この里（額田村）から久慈川へ下る坂道はとても見晴らしがよい。限りなき千町歩の田んぼは生き生きと緑色をしている。

一筋の長い堤防道の桜並木は数千本あるかもしれない。これは先君（斉昭公）の指導によるものであろう。春ならばさぞかしと思いをめぐらした。

今日は天気而定まらないままで太田の里に着いた時には未だ雨が降っていた。小野というあたりは東の山並みが間近に見えてなかなか趣がある。西山公（光圀公）は、都の山に準えて東山と名付けた。

名にたてるこれも東の東山

都の人にみせんとしかも

むかし白川の兵ども太田の城を攻めようとして押し寄せたときこの所で戦に敗れ、つ

わ者ども多く討たれた。そこに杭塚などというものが立てられている。

いにしへの跡をめぐれば夏草の

露のみ袖に散り乱れつる

それより里川という沢沿いに行く。このあたりは田にも畑にも千引の石というものが多々ある。

大那むちすくな彦那の神わざも

うつつに残ることのかしこさ

玉たれにてしばらくの間休憩する。この瀧の源は高い山より落ちる水のここかしこ、岩石にくだけちる様は何とも言いようがない。

又やみん千尋を落ちて岩間より

砕ける波の玉たれの瀧

夕暮れに坂の上というところに泊まりぬ。里の有り様は軒端まで山高く聳え、離れは谷川の音がすさまじかった。

よもすがらすさぶ嵐と思ひしは

した行く河の音にそ有ける

三日朝、露深きに出立して折橋といへる村の佐川某という者の家を訪問した。主人は歓待として野の物河のものと酒を勧めるなどしてくれた。この家は西山公の時代に先祖が近在の山で熊を射止めて進上したので村の武士（郷士）に取り立てられたという。

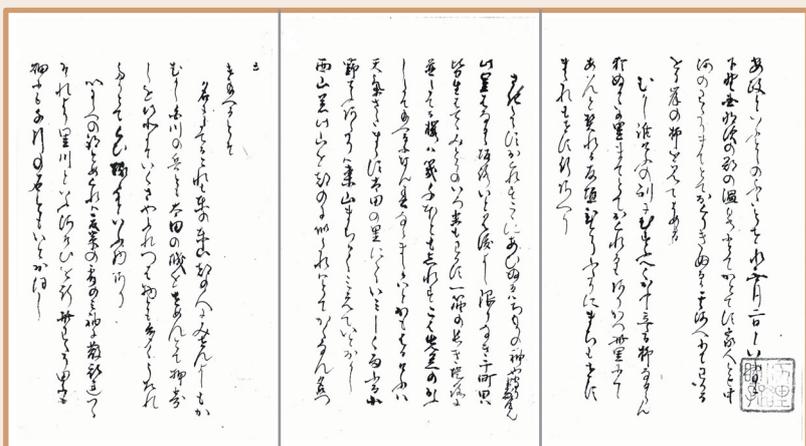
徳田という村まで水戸領で、坂道を上ると山頂に境の明神社がある。何もない神社であったが拝礼して通った。

ここは常陸国と陸奥国の境である。これよりは下り行く坂道なのだが、さかいは坂合などと物知りの人が言っていたのをふと思いつ出した。振り返り見れば村や山がよく見えた。

見かえれば雲井にそびゆ高すずの
□□に内の□かりけり

以上著者の意とするところを十分に書き尽くせたか言えは甚だ心許ない。

（付記）朝比奈泰吉は通称名を豊日子、篠屋と号した。歌学や和歌に対する造詣が深く、安政四年（一八五七）水戸藩士に取り立てられ弘道館に勤務している。明治十七年（一八八四）没、享年六十四歳、編著には「類題衣手集」他がある。（吉成英文）



那須温泉紀行の冒頭部分